

エコアクション21

# 環境経営レポート

2023年度

対象期間：2023年9月～2024年8月



株式会社 大東和

2024年9月30日発行

# 目 次

1	環境経営方針	1
2	組織の概要と認証・登録範囲及び実施体制	2
3	環境経営目標	3
4	環境経営計画	4
5	環境経営目標の実績	5・6
6	環境活動計画の取組状況の確認及び評価、 次年度の取組内容	7・8
7	次年度の環境経営目標、環境経営計画	9
8	環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟などの有無	10
9	代表者による全体評価と見直しの結果	10

# 1 環境経営方針

## 基本理念

株式会社大東和は、事業である解体工事を通じて、廃棄物の削減、再資源化、再使用と資源循環型社会の形成を目指し、環境保全と環境負荷低減に社員一同積極的また継続的に取り組むとともに、環境経営の継続的改善を推進します。

## 行動指針

1. 以下の項目を重点目標とし環境負荷低減に取り組みます。
  - (1) 電気、ガソリン、軽油の節約に努め、二酸化炭素の排出量を削減します。
  - (2) 節水に努め、水の使用量を削減します。
  - (3) 廃棄物排出量の削減とリサイクルに努めます。
  - (4) 環境保全への取組を通して、業務の効率化や技術の向上、事業場の環境改善を目指します。
2. 環境保全のため、事業場とその周辺の清掃活動を行うことにより地域の環境美化に努めます。
3. 事業に関わる環境関連法規などを遵守します。

制定日 平成29年5月20日

改定日 令和2年9月1日

株式会社 大東和

代表取締役 大松 樹美江

## 2 組織の概要と認証・登録範囲及び実施体制

### 名称及び代表者名

株式会社 大東和

代表取締役 大松樹美江

### 所在地

本社 福岡市東区松島1丁目1番29号

### 環境管理責任者及び担当者氏名並びに連絡先

環境管理責任者及び担当者 大松 賢次

TEL : 092-621-1395

E-mail : daito@jcom.home.ne.jp

FAX : 092-623-0607

URL : <https://daitohwa.co.jp/>

### 事業の内容

解体工事

### 事業の規模

法人設立年月日 1980年10月20日

資本金 3,000万円

売上金 80,000千円(2023年度)

従業員数 12人

事業所の延べ面積 110㎡

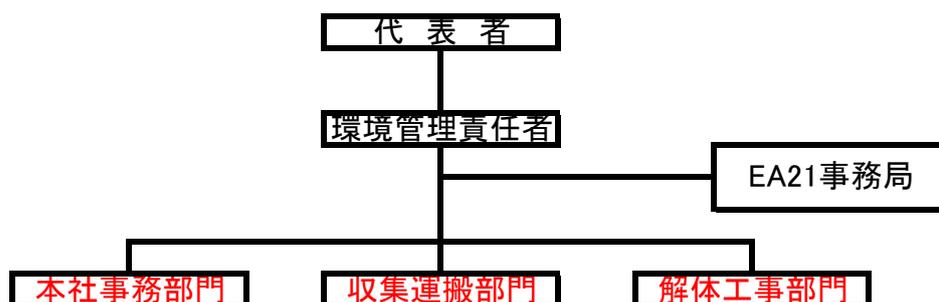
事業年度 9月から翌年8月まで

### 認証・登録範囲

対象事業所 本社

対象活動 解体工事業

### 実施体制



### 3 環境経営目標（2023～2025年度）

環境目標	サイト区分	単位	基準年			
			2022年度	2023年度 (1%削減)	2024年度 (2%削減)	2025年度 (3%削減)
			2022年9月～2023年8月	2023年9月～2024年8月	2024年9月～2025年8月	2025年9月～2026年8月
1. 二酸化炭素排出量の削減	全社	kg-CO <sub>2</sub>	199,012	197,022	195,032	193,042
① 電気使用量の削減	全社	kWh	16,909	16,740	16,571	16,402
② ガソリン使用量の削減	全社	L	8,889	8,800	8,711	8,622
③ 軽油使用量の削減	全社	L	65,447	64,793	64,138	63,484
2 ① 一般廃棄物排出量の削減	2階事務所	kg	280	277	274	272
② 産業廃棄物の再資源化率の向上	現場	%	>95% (ただし、廃石綿を除く)	>95%	>95%	>95%
3 ① 水使用量の削減	全社	m <sup>3</sup>	559	553	548	542
③ 水使用量の削減	現場	m <sup>3</sup>	自社の元請工事は現場で水の使用がある場合は数値を把握する			
4. 化学物質適正管理	現場	化学物質の扱いはほとんどないので、あった場合は適正管理の努力目標とする。				
5. 重機修理費の適正管理	現場	円	13,062,211	修理費のデータを把握して社員に修理費の意識を持たせる。		
6. 事業全般の意識向上の勉強会	全社	回数	6	1回/2月以上	1回/2月以上	1回/2月以上
7. 施工の提案入札及び研修会への参加	全社	提案	1	1件以上	1件以上	1件以上
	全社	研修会参加回数	2	2回以上	2回以上	2回以上

備考

1. 購入電力の二酸化炭素排出係数は、0.475kg-CO<sub>2</sub>/kWh(九州電力 2022年度調整後排出係数)を使用した。

## 4 環境経営計画

### 1. 二酸化炭素排出量の削減

二酸化炭素排出量削減のために次のような取組を行います。

#### (1) 電気の使用量の削減

- ① エアコン設定温度を決め、実行する。
- ② 不用な空調・照明・パソコンは使わない。

#### (2) ガソリン使用量の削減

- ① アイドリングストップ等運転方法の配慮(急発進・急加速や空ぶかしの排除、駐停車中のエンジン停止等)を行う。
- ② 車輛の整備・点検を行う。定期的にオイル交換をする。

#### (3) 軽油使用量の削減

- ① アイドリングストップ等運転方法の配慮(急発進・急加速や空ぶかしの排除、駐停車中のエンジン停止等)を行う。  
重機空調は作業性と健康を配慮して判断する。
- ② 車輛の整備・点検を行う。

### 2. 廃棄物排出量の削減と再資源化の促進

#### (1) 一般廃棄物排出量の削減

- ① 使用済み用紙の裏紙を利用する。
- ② 燃えるごみの数量(袋数)を管理する。
- ③ アルミ缶、スチール缶の分別。

#### (2) 産業廃棄物の再資源化率の向上

- ① 特定建設資材廃棄物(建設発生木材、アスファルト・コンクリート塊、コンクリート塊)の分別の徹底。
- ② 分別解体により、混合廃棄物の減容を図る。

### 3. 水使用量の削減

- ① 日常的な節水を励行。
- ② 節水タイプのトイレを導入する。
- ③ 社用車の洗車を必要最小限に留め、洗車に使用するホースの先にはストッパーをつける。
- ④ 水タンク注水時はストッパーをつけ、溢水させない。
- ⑤ 手洗い、洗車は節水を心がける。

### 4. 化学物質使用の適正管理

- ① 塗料、接着剤、吹付剤その他の化学物質を使用するときは当該物質の化学物質安全性データシート(俗称SDSまたはMSDS)を取り寄せ、万々に備える。

### 5. 重機修理費の適正管理

- ① 修理費のデータを把握して意識を共有する

### 6. 事業全般の意識向上の勉強会

- ① 月1回以上勉強会を開催する。
- ② 勉強会の資料作成のための情報を集める。

### 7. グリーン購入推進

現場でのリサイクル建材の購入 RC-40等  
事務用品等グリーン購入を配慮する

### 8. 施工の提案、入札及び研修会への参加

#### (1) 施工提案

- ① 総合評価入札参加を推進する

#### (2) 研修会参加

- ① 解体工事勉強会等、研修会開催時には積極的に参加する。
- ② 業界紙、官庁広告、インターネット等の情報収集

## 5 環境経営目標の実績

活動期間 2023年9月～2024年8月

	単位	基準年 (2022年度)	2022年9月～2023年8月			結果の評価
			目標	実績	達成率	
1. 二酸化炭素排出量の削減	kg-CO <sub>2</sub>	199,012	197,022	163,595	120% (○)	削減取組は定着している。二酸化炭素排出量の83%は軽油起源である。軽油の排出量は前期比81%で大幅減少となっている。今期は前期に比して工事量が少なかった。
(1) 電気使用量削減						
事務所	kWh	16,909	18,171	15,968	114% (○)	節電は心掛けている。3～5月期に使用量が増加したが、その他の季節は削減目標を達成している。
(2) ガソリン使用量削減						
現場	ℓ	8,889	8,800	7,954	111% (○)	ガソリン使用量は工事実施量が減少した分少なくなった。
(2) 軽油使用量削減	ℓ					
現場	ℓ	65,447	64,793	52,767	123% (○)	2023年度は2022年度に比べて工事の受注が減ったことから軽油使用量は大幅に減少した。
2. 廃棄物排出量の削減						
事務所一般廃棄物排出量の削減	kg	280	277	315	88% (○)	古い資料の処分によって廃棄量が増えた。
産業廃棄物の再資源化率(%)の向上(石綿除く)	%	>95	>95	99.2	○	ほぼ100%のリサイクル率を維持しています。
産業廃棄物排出量把握	t	—	排出量把握	1,073	—	
3. 水使用量の削減	m <sup>3</sup>	559	553	620	89% (×)	水の節水取組は良くできていました。重機メンテナンスや清掃で使用量はやや増加しています。第1～3四半期の目標未達成については是正処置を実施しています。
4. 化学物質使用量の削減	—		適正管理	使用無し	—	使用無し
5. 重機修理費の適正管理	修理費のデータを把握して社員に修理費を意識させる。					経営上重要なデータなので引き続き把握していきます。
6. 現場におけるリサイクル建材の購入	現場	—	—	グリーン購入に配慮	—	リサイクル建材の購入無し 引き続き調査をしていく。
事務用品等購入時グリーン購入に配慮	全社		グリーン購入に配慮	グリーン購入に配慮	—	事務用品等購入時グリーン購入に配慮している。

7. 本業による取組						
事業全般の意識向上の勉強会	回数	6	1回/2月以上	6	100% (○)	2ヶ月に1回の勉強会を目標とし予定通り出来た。
施工の提案	提案	1	1件以上	1	100% (○)	提案1件があり落札に繋がった。
研修会への参加	研修会 参加回数	2	2回以上	1	—	展示会(東京)に参加した。

※購入電力の二酸化炭素排出係数は、0.475kg-CO<sub>2</sub>/kWh(九州電力 2018年度調整後排出係数)を使用しました。

※削減目標の達成率は、(目標値/実績値)×100% で示す。

※増加目標の達成率は、(実績値/目標値)×100% で示す。

※達成率≥100%:○ 100%>達成率≥95%:△ 95%>達成率:×

## 6 環境活動計画の取組状況の確認及び評価、次年度の取組内容

### 1. 二酸化炭素排出量の削減

活動項目		実施状況	1年間の評価	次年度の取組内容
電気使用量削減	エアコン設定温度を決め、実行する	○	計画した取組はほぼ実行できていて社員も取組に対する意識が高くなってきています。これからも引き続き継続していきます。	引き続き計画した取組を実施していきます。
	不用な空調・照明・パソコンは使わない	○		
ガソリン使用量削減	アイドリングストップ等運転方法の配慮（急発進・急加速や空ぶかしの排除、駐停車中のエンジン停止等）を行う。	○		
	車輛の整備・点検を行う。定期的にオイル交換をする。	○		
軽油使用量削減	アイドリングストップ等運転方法の配慮（急発進・急加速や空ぶかしの排除、駐停車中のエンジン停止等）を行う。重機空調は作業性と健康を配慮して判断する。	○		
	車輛の整備・点検を行う。	○		

### 2. 廃棄物排出量削減

活動項目		実施状況	1年間の評価	次年度の取組内容
一般廃棄物	使用済み用紙の裏紙を利用する。	○	計画した取組はほぼ実行できていて社員も取組に対する意識が高くなってきています。これからも引き続き継続していきます。	引き続き計画した取組を実施していきます。
	燃えるごみの数量（袋数）を管理する。	○		
	アルミ缶、スチール缶の分別	○		
産業廃棄物の再資源化率の向上	ペットボトルキャップ、プルタブの回収	○		
	特定建設資材廃棄物（建設発生木材、アスファルト・コンクリート塊、コンクリート塊）の分別の徹底。	○		
	分別解体により、混合廃棄物の減容を図る。	○		

### 3. 水使用量削減

活動項目		実施状況	1年間の評価	次年度の取組内容
本社	日常的な節水を励行。 社用車の洗車を必要最小限に留め、洗車に使用するホースの先にはストッパーをつける。	○ ○	計画した取組はほぼ実行できていて社員も取組に対する意識が高くなってきています。これからも引き続き継続していきます。	引続き計画した取組を実施していきます。
現場	水タンク注水時はストッパーをつけ、溢水させない。	○		
	手洗い、洗車は節水を心がける。	○		

### 4. 化学物質使用量の削減

活動項目		実施状況	1年間の評価	次年度の取組内容
塗料、接着剤、吹付剤その他の化学物質を使用するときは当該物質の化学物質安全性データシート（俗称SDSまたはMSDS）を取り寄せ、万に備える。		—	該当はありませんでした。	該当が発生した場合は化学物質安全データシートを取り寄せ、万に備えます。

### 5. グリーン購入の推進

活動項目		実施状況	1年間の評価	次年度の取組内容
現場	RC-40等の購入	—	該当はありませんでした。	購入についてはガイドライン2017年版では必須ではなくなったことから、2020年度以降の環境経営目標は設定しませんが、グリーン購入の取組は継続します。
事務所	事務用品等購入時にグリーン購入に配慮する	—	購入時にグリーン購入に配慮した。	

### 6. (本業における環境貢献)

活動項目		実施状況	1年間の評価	次年度の取組内容
事業全般の意識向上の勉強会	2月に1回以上勉強会を開催する。	○	勉強会は2月に1回の実施しとして、予定通り実施できた。 今年度は技術提案1件を行い受注につながった。	勉強会は技術面、安全面を中心に引き続き継続します。技術提案も機会を捉えて積極的に行います。解体工事や廃棄物関係の研修会等に積極的に参加します。
	勉強会の資料作成のための情報を集める。	○		
施工の提案	総合評価入札参加を推進する	○		
研修会参加	解体工事勉強会等、研修会開催時には積極的に参加する。	○		
	業界紙、官庁広告、インターネット等の情報収集。	○		

○：実施できた △：十分とは言えなかった ×：不十分であった

## 7 次年度の環境経営目標、環境経営計画

次年度以降の環境経営目標は、「3 環境経営目標(2023～2025年度)」に記載しています。  
環境経営計画は、以下のとおりです。

1. 二酸化炭素排出量の削減  
二酸化炭素排出量削減のために次のような取組を行います。  
す  
(1) 電気の使用量の削減  
① エアコン設定温度を決め、実行する。  
② 不用な空調・照明・パソコンは使わない。  
  
(2) ガソリン使用量の削減  
① アイドリングストップ等運転方法の配慮(急発進・急加速や空ぶかしの排除、駐停車中のエンジン停止等)を行う。  
② 車輛の整備・点検を行う。定期的にオイル交換をする。  
  
(3) 軽油使用量の削減  
① アイドリングストップ等運転方法の配慮(急発進・急加速や空ぶかしの排除、駐停車中のエンジン停止等)を行う。重機空調は作業性と健康を配慮して判断する。  
② 車輛の整備・点検を行う。
2. 廃棄物排出量の削減と再資源化の促進  
(1) 一般廃棄物排出量の削減  
① 使用済み用紙の裏紙を利用する。  
② 燃えるごみの数量(袋数)を管理する。  
③ アルミ缶、スチール缶の分別。  
  
(2) 産業廃棄物の再資源化率の向上  
① 特定建設資材廃棄物(建設発生木材、アスファルト・コンクリート塊、コンクリート塊)の分別の徹底。  
② 分別解体により、混合廃棄物の減容を図る。
3. 水使用量の削減  
① 日常的な節水を励行。  
② 節水タイプのトイレを導入する。  
③ 社用車の洗車を必要最小限に留め、洗車に使用するホースの先にはストッパーをつける。  
④ 水タンク注水時はストッパーをつけ、溢水させない。  
⑤ 手洗い、洗車は節水を心がける。
4. 化学物質使用の適正管理  
① 塗料、接着剤、吹付剤その他の化学物質を使用するときは当該物質の化学物質安全性データシート(俗称SDSまたはMSDS)を取り寄せ、万に備える。
5. 重機修理費の適正管理  
① 修理費のデータを把握して意識を共有する
6. 事業全般の意識向上の勉強会  
① 月1回以上勉強会を開催する。  
② 勉強会の資料作成のための情報を集める。
7. グリーン購入推進  
現場でのリサイクル建材の購入 RC-40等  
事務用品等グリーン購入を配慮する
8. 施工の提案、入札及び研修会への参加  
(1) 施工提案  
① 総合評価入札参加を推進する  
  
(2) 研修会参加  
① 解体工事勉強会等、研修会開催時には積極的に参加する。  
② 業界紙、官庁広告、インターネット等の情報収集

## 8 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

当社の事業活動、製品及びサービスに適用される環境関連法規等は次のとおりです。

適用される法規等	適用される事項(施設・物質・活動等)
廃棄物の処理及び清掃に関する法律(廃掃法)	一般廃棄物及び産業廃棄物の管理・排出 マニフェストの交付・回収・保管の適正処理
建設リサイクル法	一定規模以下は建築4品目の分別解体と再資源化
騒音規制法	特定建設作業の届出 建設現場での機械使用時の騒音レベルの遵守
振動規制法	特定建設作業の届出 建設現場での機械使用時の振動レベルの遵守
石綿障害予防規則	石綿障害の発生防止、報告・届出遵守
オフロード法	基準適合車の使用
フロン排出抑制法	空調機の簡易点検の実施
大気汚染防止法	解体工事でのアスベスト除去工事の調査、説明、記録の作成、 保存

上記の環境関連法規等の遵守状況を確認・評価した結果、法規違反はありませんでした。また、関係機関等からの指摘、利害関係者からの訴訟もありませんでした。

## 9 代表者による全体評価と見直しの結果

### 8.1 総評

2018年4月にエコアクション21の認証・登録を得ました。これまで6か年の取組の結果、システムは機能して、環境への取組も定着しています。今後も継続的な取組を行います。

二酸化炭素排出量は全体では削減できていると思います。二酸化炭素排出量の83%は軽油起源です。2023年度の軽油の使用量は今期は前期に比して工事量が少なかったため前期比81%で大幅減少となっています。

事務所ごみは前期比でやや増加しています。古い資料などの廃棄を行ったためですが、今後も事務所ごみの削減に努めます。産業廃棄物についてはリサイクル率95%以上を維持します。

水使用量の目標は未達成でしたが、さらなる節水努力を行ないます。

### 8.2 変更の必要性の有無

環境経営方針と環境経営計画、実施体制については変更はありません。

環境経営目標については、2023年度から新たな中期目標とします。二酸化炭素排出係数は九州電力の直近の調整後排出係数を使用しています。

教育については、2月に1回の開催を継続します。技術提案は引き続き積極的に行います。